

第5章 男女平等の視点に立った教育

● 第1節 学校における男女平等教育 ●

1 初等中等教育

(1) 幼稚園・小学校

平成22年度の「学校基本調査」によると、平成23年5月現在の幼稚園数は557園、その在園者数は6万5,213人で、平成18年度と比べ園数で15園、在園者数で4,061人それぞれ減少しています。

年齢別在園者の割合は、5歳児が36.9%、4歳児が36.6%、3歳児が26.5%となっており、ここ数年の在園者数の推移をみると、3歳児の割合が増加しています。

また、平成23年度の就園率(*)は59.4%、修了者数は2万5,025人で、平成18年度と比べ、就園率で1.0ポイント、修了者数で2,480人減少しています。(図表5-1-1)

平成23年5月現在の小学校数は1,199校、児童数は26万9,865人で、そのうち女子は13万2,715人、男子は13万7,150人となっており、平成18年度と比べ校数で166校、児童数で1万4,687人それぞれ減少しています。

(図表5-1-2)

児童数は昭和58年度以降引き続き減少しています。

* 就園率

小学校第1学年児童数に対する幼稚園修了者の比率

(2) 中学校

平成23年5月現在の中学校数は651校、生徒数は14万4,409人で、そのうち女子は7万513人、男子は7万3,896人となっており、生徒数は昭和61年度をピークに、それ以降は減少を続けています。(図表5-1-3)

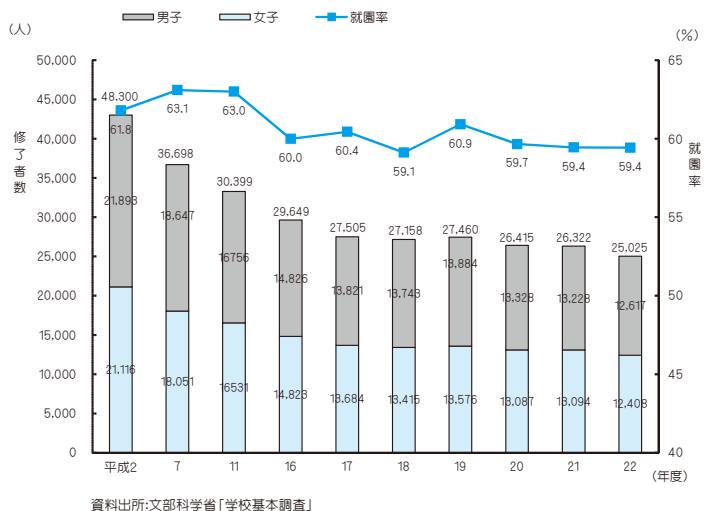
中学校卒業者のうち、高等学校等へ進学した人は4万8,131人で、そのうち女子は2万3,742人、男子は2万4,389人となっており、進学率は女子が99.0%、男子が98.7%となっています。

女子の進学率は、平成12年までは増加傾向にありましたがそれ以降は増減しており、一方、男子は引き続き増加しています。

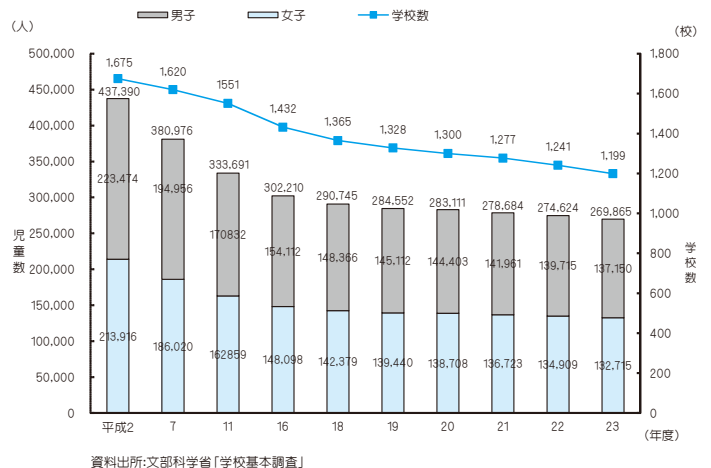
高等学校等への進学率は、昭和61年以降、女子、男子ともに全国を上回っています。

(資料30(P98))

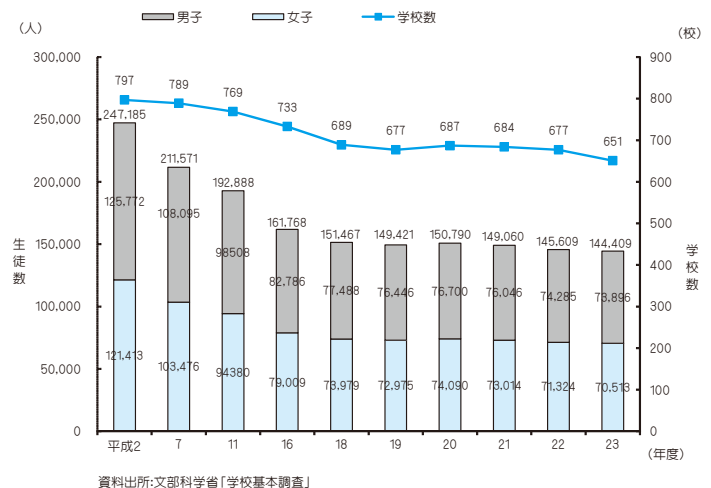
図表5-1-1 幼稚園の就園率と修了者数の推移(北海道)



図表5-1-2 小学校の児童数と学校数の推移(北海道)



図表5-1-3 中学校の生徒数と学校数の推移(北海道)



(3) 高等学校

平成23年5月現在の高等学校（通信制の課程を除く。）数は300校、生徒数は14万377人で、そのうち女子は6万9,662人、男子は7万715人となっており、生徒数は平成3年度から減少に転じています。

(図表5-1-4)

男女別に学科別構成比をみると、女子は普通科77.4%が最も多く、次いで、商業科10.4%、総合学科4.4%、農業科2.5%、家庭科1.4%、男子は普通科74.6%、工業科11.6%、商業科4.4%、総合学科3.4%、農業科3.2%の順となっています。（資料32(P99)）

平成23年3月の卒業者数は4万6,701人、そのうち女子は2万3,163人、男子は2万3,538人で、平成3年をピークに減少しており、今後もこの傾向が続くことが見込まれます。

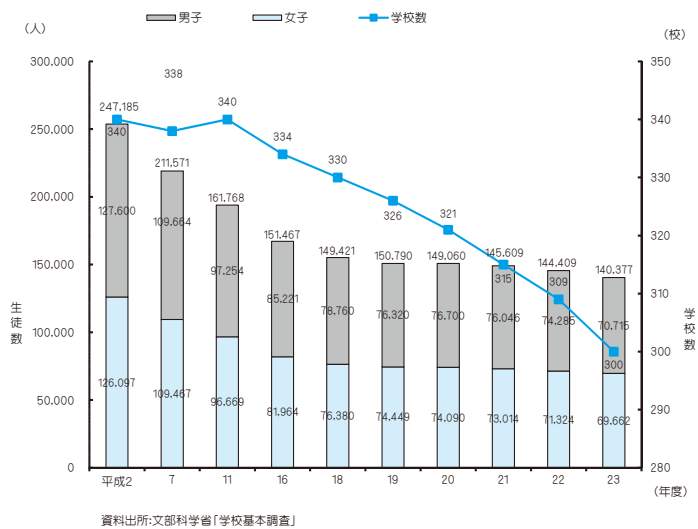
卒業者の進路状況をみると、大学等進学者数が1万8,880人で、全体の40.4%と最も多く、次いで、専修学校、各種学校等の入学者数が1万4,354人、30.7%、就職者数が9,879人、21.2%などとなっています。

(図表5-1-5)

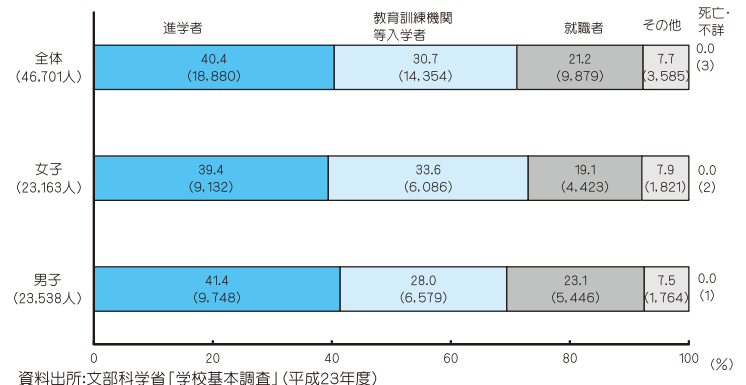
女子の進学率は39.4%で、昭和63年に男子を上回り、さらに上昇を続けていましたが、平成11年からは男子が上回っています。

(図表5-1-6)

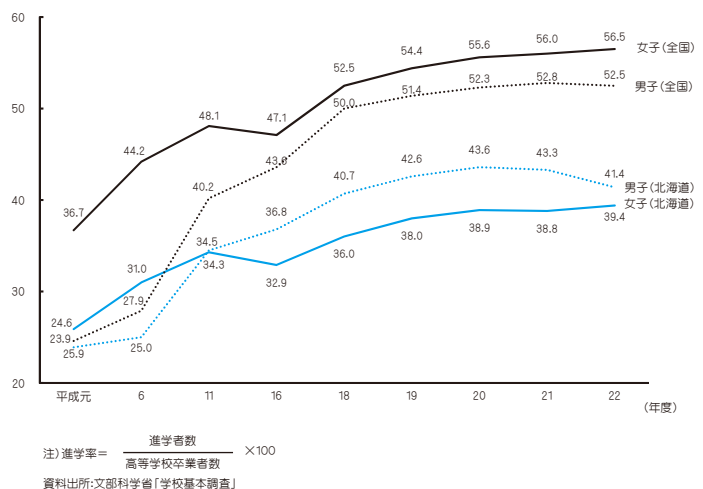
図表5-1-4 高等学校の生徒数と学校数の推移(北海道)



図表5-1-5 高等学校卒業者の男女、進路別割合(北海道)



図表5-1-6 高等学校卒業後の進学率の推移(北海道、全国)



2 高等教育

平成23年5月現在の道内の大学数は36校、学生数（学部、大学院等を含む。）は9万1,397人で、そのうち女子は3万2,810人、男子が5万8,587人となっており、学生数のうち女子の占める割合は、35.9%となっています。（図表5-1-7）

短期大学の学校数は22校、学生数は6,530人で、そのうち女子が5,202人、男子が1,328人で、学生数のうち女子の占める割合は79.7%となっています。（図表5-1-8）

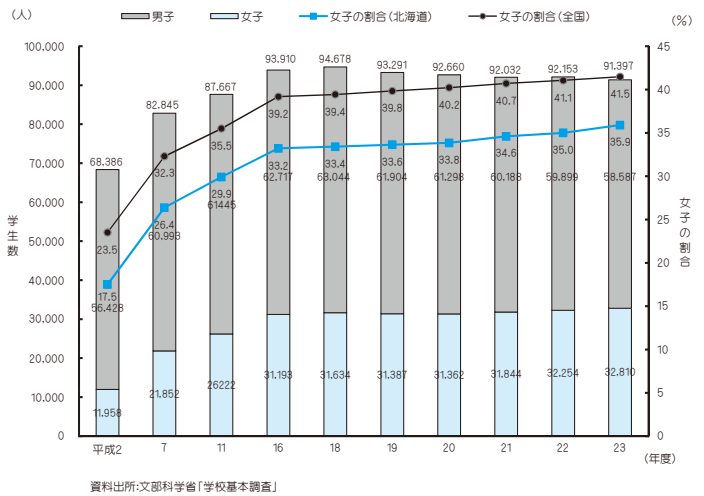
学生数に占める女子の割合を平成2年と比べると、大学では17.5%から35.9%へと増加しており、短大では79.7%で変わらず、横ばいとなっています。

（図表5-1-7、8）

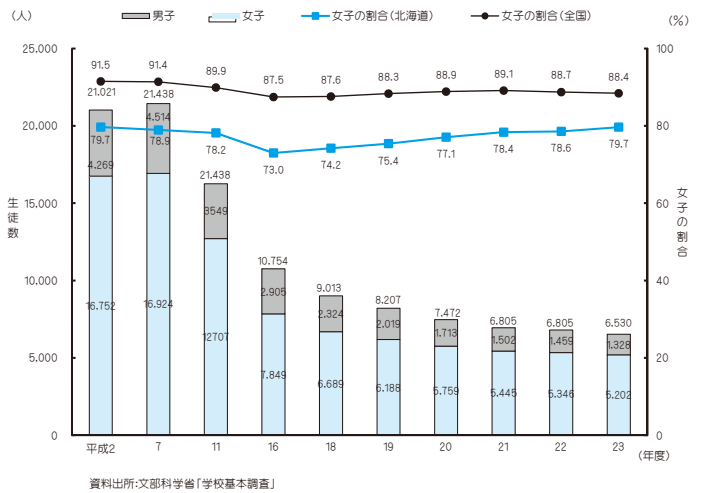
平成23年に道内の大学を卒業した人は、1万7,576人で、女子が6,491人、卒業者に占める女子の割合は36.9%、男子は1万1,085人、63.1%となっています。

卒業後の進路を男女別にみると、女子は就職者が66.0%、進学者が8.2%となっており、男子では就職者が54.8%、進学者が16.5%と、女子は男子に比べ就職者の割合が高くなっています。（図表5-1-9）

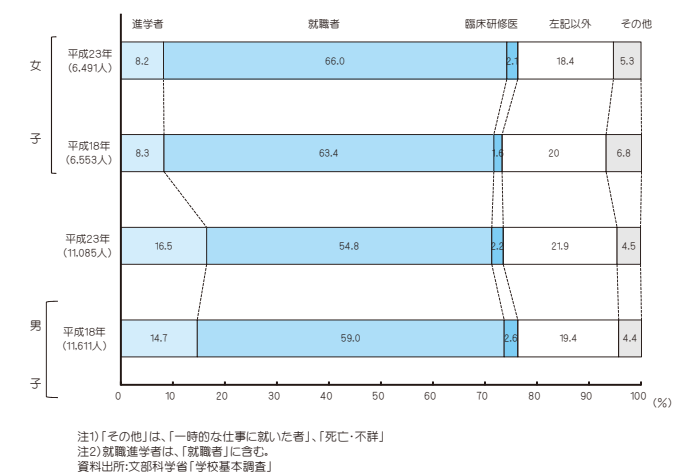
図表5-1-7 大学の学生数（北海道）及び女子の割合（北海道、全国）の推移



図表5-1-8 短期大学の学生数（北海道・全国）及び女子の割合（北海道、全国）の推移



図表5-1-9 大学卒業後の進路別割合（北海道）



女子の就職率の推移をみると、平成4年に初めて男子の就職率を上回りましたが、平成5年以降は低下し、平成11年には昭和50年以降最も低く53.3%となりました。

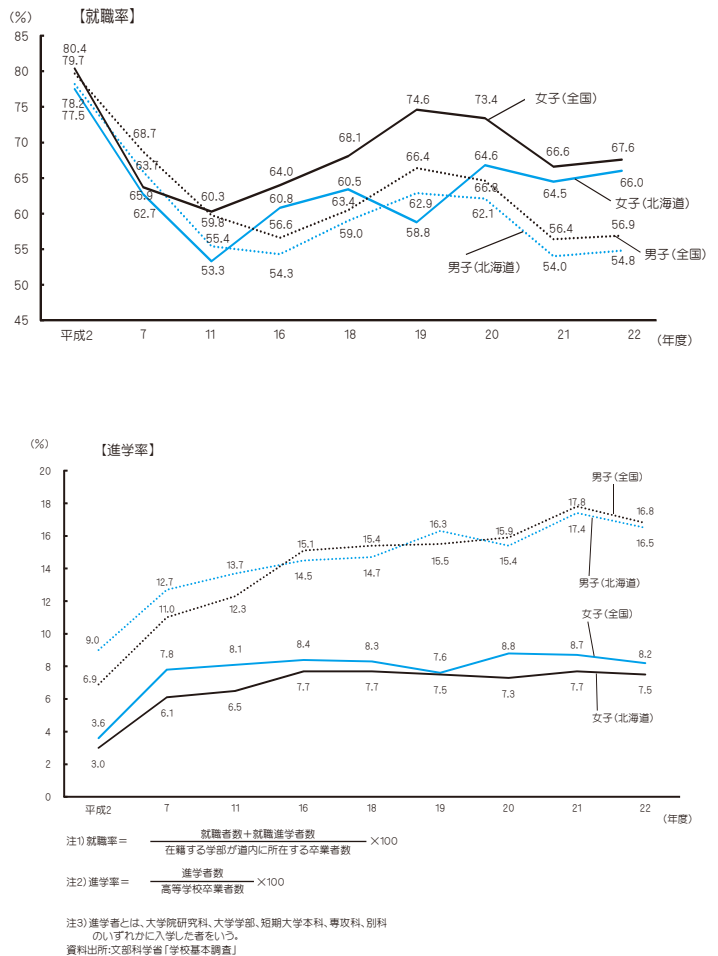
女子の大学院等への進学率は、徐々に伸びており、平成12年には過去最高の9.1%となりましたが、それ以降は8%台で推移しています。（図表5-1-10）

平成23年卒業の全国の女子の産業別就職状況をみると、最も多いのが「サービス業」で49.9%、次いで、「卸売・小売業、飲食店」14.4%、「金融・保険業」9.7%、「製造業」9.5%などとなっており、男子（「製造業」33.6%、「サービス業」29.4%、「情報通信業」19.1%）に比べ、女子の就職はサービス業が中心となっています。（図表5-1-11）

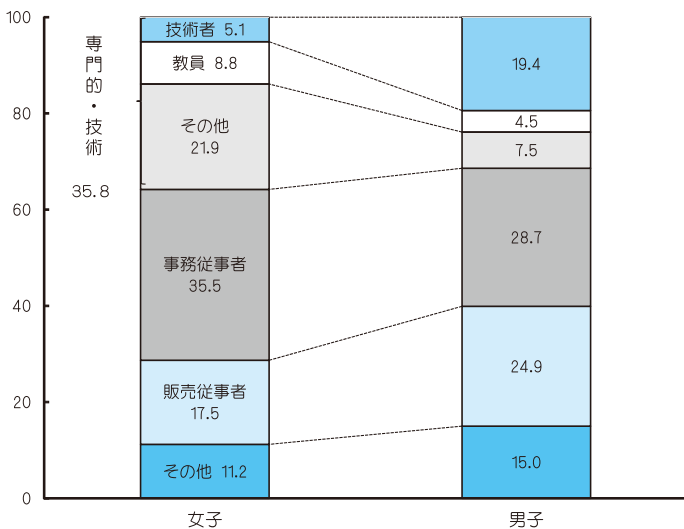
また、職業別では、女子の場合、「事務従事者」が35.5%と最も高く、次いで、「販売従事者」が17.5%、「教員」8.8%、「技術者」5.1%などとなっています。

男子においても、「事務従事者」が最も多く28.7%ですが、「販売従事者」が24.9%、「技術者」が19.4%を占めており、「事務従事者」への集中度は女子に比べ低くなっています。（図表5-1-12）

図表5-1-10 大学卒業者の就職率・進学率の推移（北海道、全国）

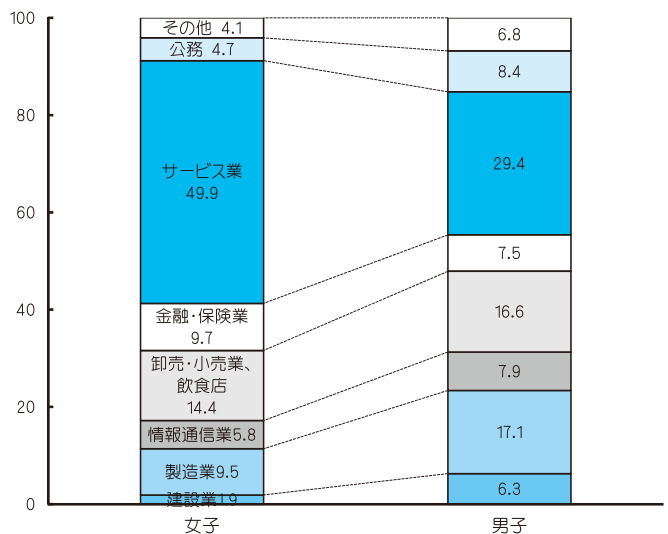


図表5-1-12 大学卒業後の職業別就職者数の割合（全国）（%）



注) 平成23年3月卒業
資料出所:文部科学省「学校基本調査」

図表5-1-11 大学卒業後の産業別就職者数の割合（全国）（%）



注) 平成23年3月卒業
資料出所:文部科学省「学校基本調査」

次に、道内の短大の卒業者は、2,853人で、女子が2,290人、卒業者に占める女子の割合は80.3%、男子は563人、19.7%となっています。

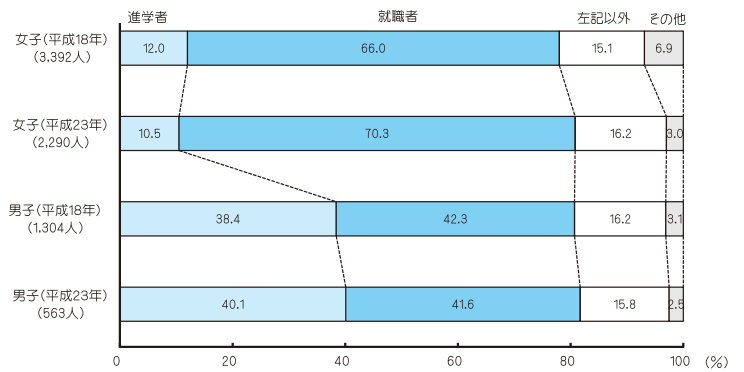
卒業後の動向をみると、男子では就職者が41.6%、進学者が40.1%であるのに対し、女子は就職者が70.3%と男子よりも高く、進学者は10.5%と少なくなっています。

(図表5-1-13)

また、女子の就職率の推移をみると、平成2年には81.6%と高い割合になっていましたが、平成11年には54.9%と26.7ポイント減少、平成12年からは再び増加しています。

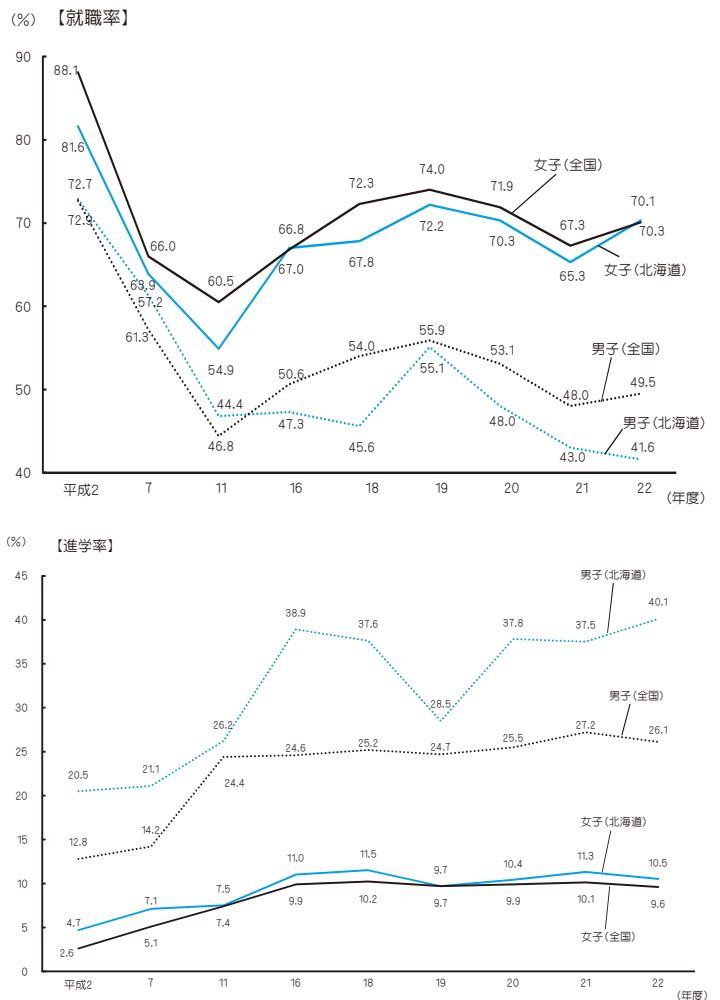
(図表5-1-14)

図表5-1-13 短期大学卒業後の進路別割合(北海道)



注1)「その他」は、「一時的な仕事に就いた者」、「死亡・不詳」
注2)就職進学者は、「就職者」に含む。
資料出所:文部科学省「学校基本調査」

図表5-1-14 短期大学卒業者の就職率・進学率の推移(北海道、全国)



注1) 就職率 = $\frac{\text{就職者数} + \text{就職進学者数}}{\text{在籍する学部が道内に所在する卒業者数}} \times 100$

注2) 進学率 = $\frac{\text{進学者数}}{\text{高等学校卒業者数}} \times 100$

注3) 進学者とは、大学院研究科、大学学部、短期大学本科、専攻科、別科のいずれかに入学した者をいう。
資料出所:文部科学省「学校基本調査」

3 女性教員の状況

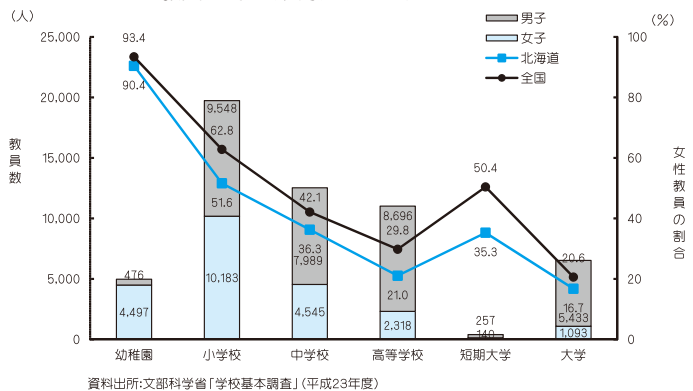
平成23年度の本道の教員数に占める女性の割合は、小学校で51.6%、中学校で36.3%、高等学校（全日制・定時制）で21.0%、短大で35.3%、大学で16.7%となっています。

女性教員数について、平成14年度と比べると、小学校では4.7ポイント、中学校では1.8ポイント、高等学校では2.2ポイント増加しています。

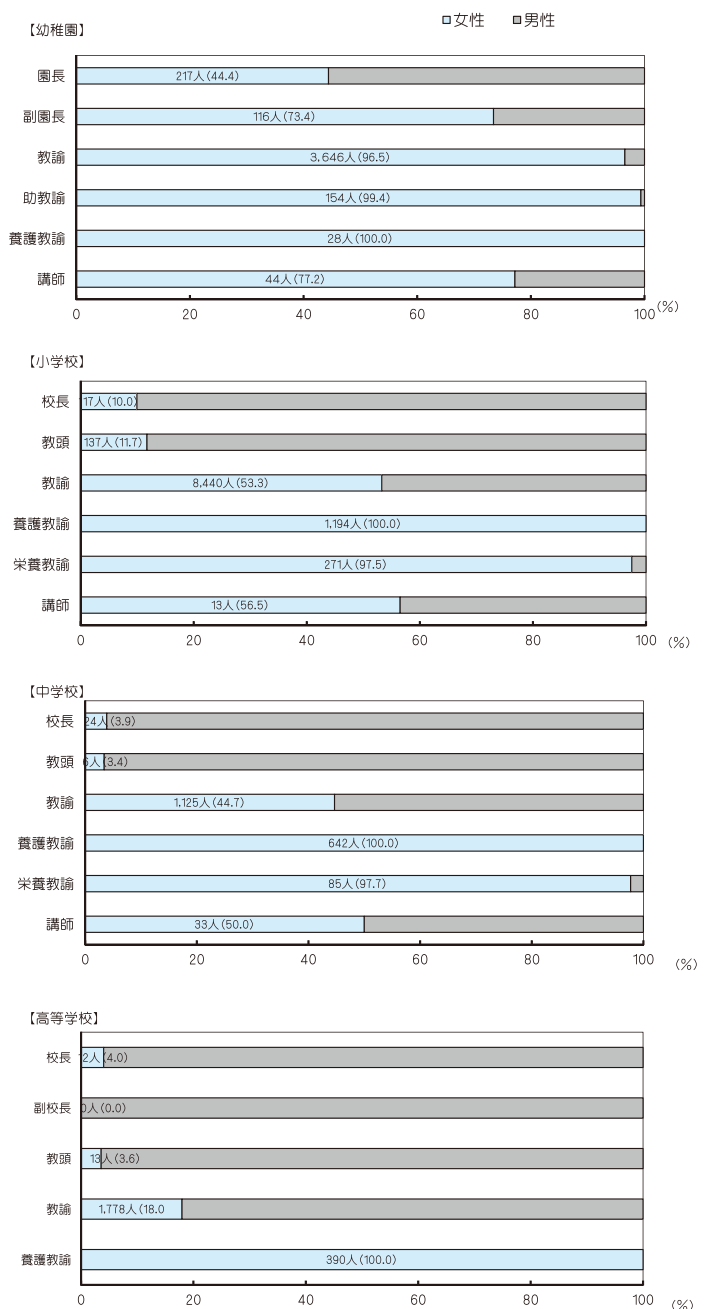
しかし、本道は全国と比べると、全ての学校種別において女性教員の割合が低く、小学校では、全国の62.8%と比べ11.2ポイント下回っています。

また、校長、教頭等の管理職に占める女性の割合は、小学校では10.8%、中学校では3.8%、高等学校では3.5%となっています。

図表5-1-15 学校の種別別本務教員数（北海道）及び女性教員の割合（北海道、全国）



図表5-1-16 職名別学校教員の男女構成（北海道）



● 第2節 社会における男女平等教育 ●

1 生涯学習への参加

平成20年度の「道民意識調査」によると、調査以前の1年間に生涯学習をした人の割合は38.0%となっています。

男女別では、女性は41.1%、男性は34.9%と女性の割合が高くなっています。

(図表5-2-1)

実際に行っている生涯学習の内容を分野別にみると、「健康・スポーツに関するもの(健康法、医学、栄養、ジョギング、水泳など)」が67.3%と最も高く、次いで「趣味的なもの(音楽、美術、華道、舞踏、書道など)」58.2%などとなっています。

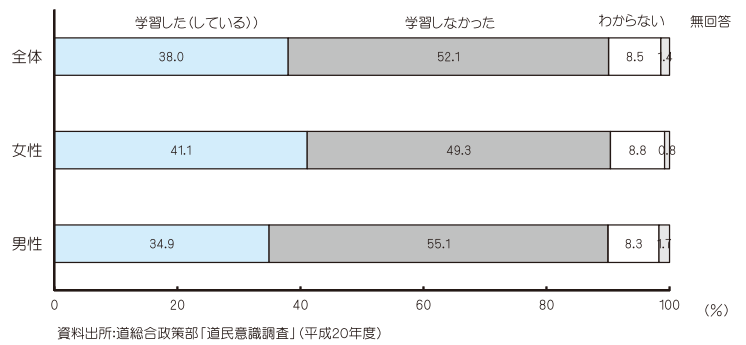
性別にみると、女性では健康・スポーツに関するもの、趣味的なもののほか、料理、洋裁、和裁、編み物など家庭生活に役立つ技能で47.8%、男性では職業上必要な知識技能で26.7%と高い割合となっています。

(図表5-2-2)

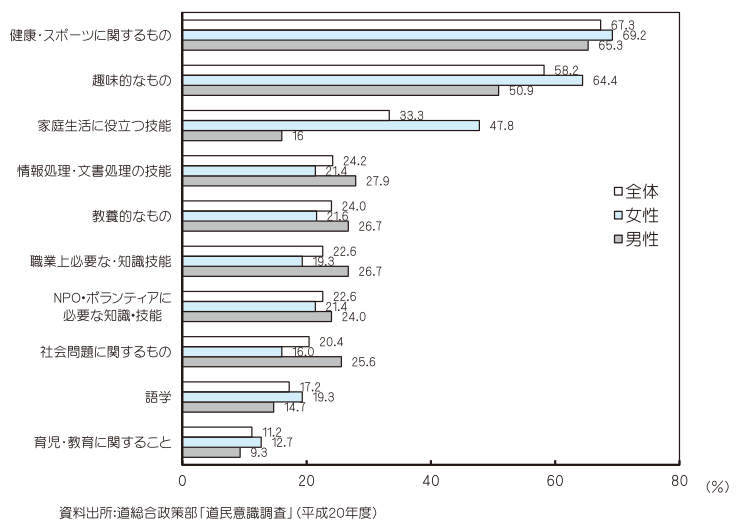
また、身につけた知識・経験を活かしたい活動内容についてみると、「地域での奉仕活動の支援」が34.8%と最も高く、次いで、「趣味のための学習活動に関する指導・助言」31.1%、「仕事に関係のある学習に関する支援や指導」24.3%、「子育て・育児を支援する活動」22.3%などとなっています。

(図表5-2-3)

図表5-2-1 生涯学習の実施状況(北海道)



図表5-2-2 生涯学習の内容(北海道)



図表5-2-3 身につけた知識・経験を活かしたい活動内容(北海道)

